



条幅規定

師範正 秦 鶴芳

晩年の顔真卿の麻姑仙壇記を彷彿させる用筆で、彼の精悍な力を内に秘め、懷が広く、伸びやかさの中にも柔かみと温かさを感じさせる。顔法の用筆を捉え、よく自己のものにしている。

条幅随意

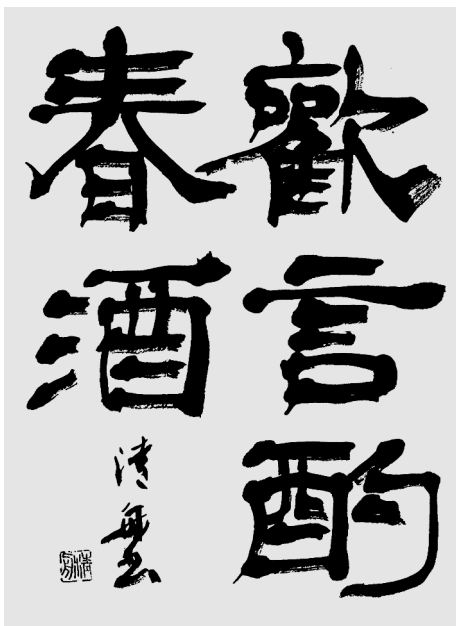
準師範 溜 鶯舟

何も考えず、精神を高揚させ、何にも捕らわれないことなく、意先筆後で今の技量を十分に發揮された生気のある作品である。や、単調な右上りは気になるが、久し振りの快作にエールを贈る。

条幅随意(臨書)

2 級 佐々木律彰

基本古典は形臨を重視するが、その中でこの古典から何を学ぶかが大切である。この作品は気魄に満ちた筆致で躍動感のある筆勢が線に生命感を与え魅力を感じさせてくれる。



半紙規定

師範正 小野 清舟

長鋒を駆使し、安定したリズムで現代的な要素をもった隸書作品となりました。さらに古典を習得し、新しい自分発見にチャレンジしよう。



半紙随意

成家 細田 青秀

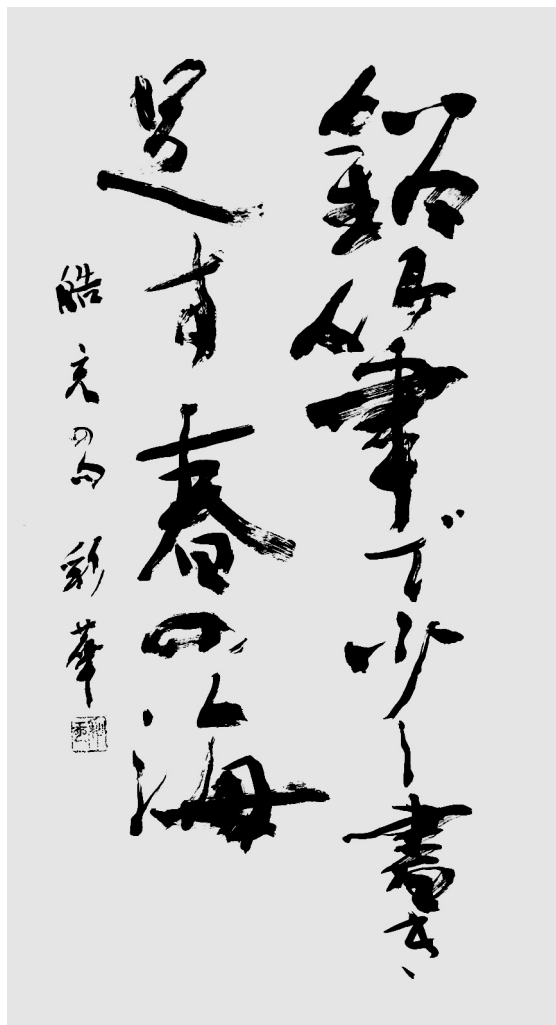
や、濃墨の感もあるが、空間処理の大きさと線の呼吸の長さに心魅かれる。今後は墨色、紙の選別にも気をとめ、完成度の高い作品づくりを期待する。



半紙随意(臨書)

師範正 山口 裕華

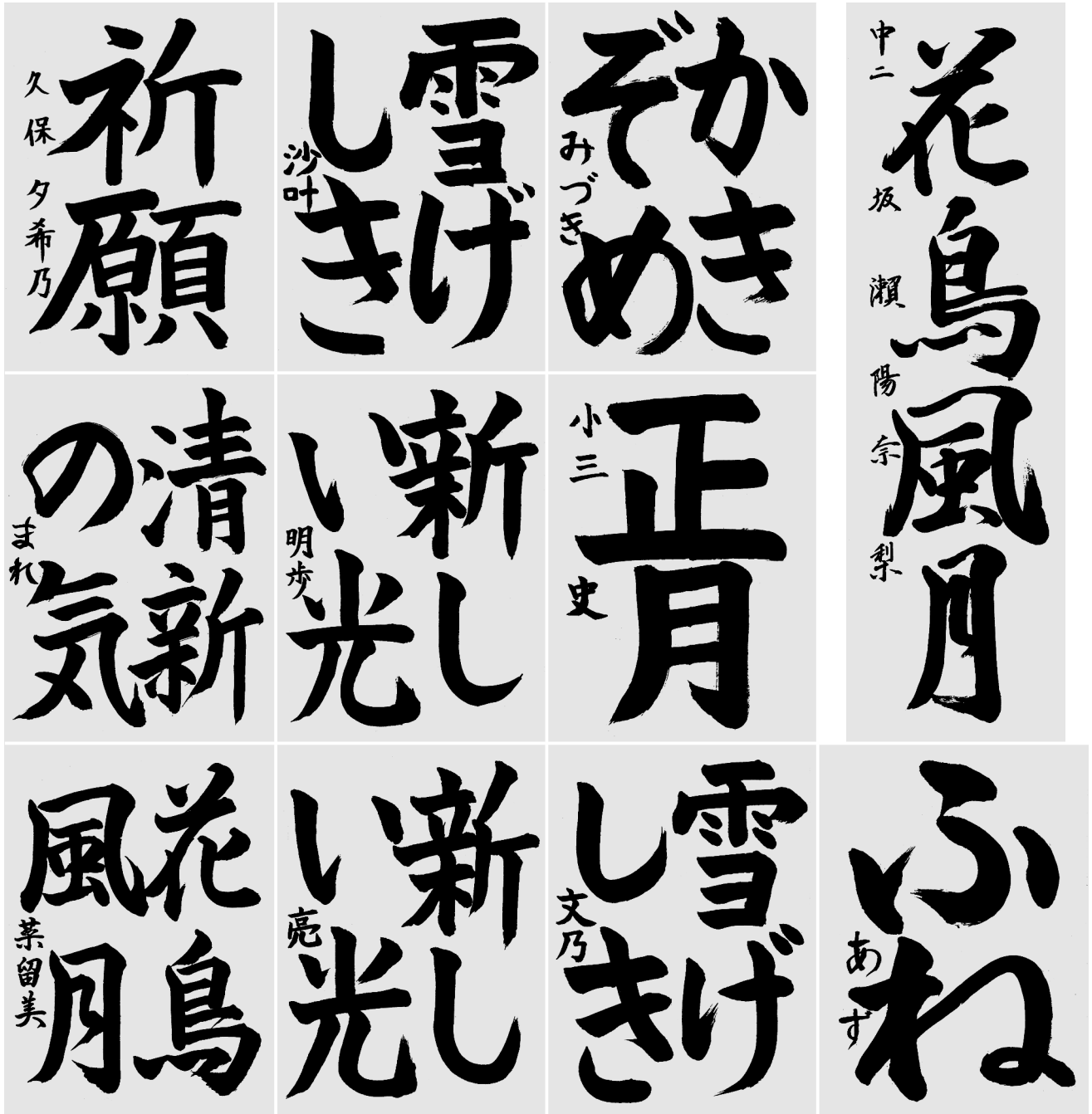
張猛龍の気魄に満ちた筆致と緊張感がよく表現出来た快作である。この筆意を修得し、書展の作品に活かしてほしい。期待している。



半折1/2縦

成家 兼富 彩華

気のこもった筆致で結体、バランスともよく余白のきいた完成度の高い作である。たゞこの支部の方々は墨が濃すぎる感がある。淡墨・青墨にも挑戦し、作品の幅を広げよう。



学生部条幅 (1/4)

中二 準特待生 坂瀬陽奈梨

行書の流れを自分のものとし、リズムに乗って伸びやかに書けています。頂上まであと一歩です。勉強や部活との両立を頑張ってください！

松尾 明珠 小一 準6級

あずさんのげんきが、かみいっぱい、いであふれていて、見ていてげんきのでるさくひんです。これからもがんばってくださいね。

末竹 海月 小二 4級

ていねいなふでづかいで形よく書けています。筆の根元まですみをつけるとさらによくなります。期待しています。

浅川 史 小三 準4級

気のこもった線で、どうしようと書けましたね。き本の筆づかいがしっかりとできていて、段の人にも負けない力を持っています。

橋山 沙叶 小四 1級

お手本を良く見て形よく明るく書けています。今後は、最後の押さえまでていねいに書くことさらに良くなります。がんばってくださいね。

山田 明歩 小五 準五段

明るくすっきりとした線が、とても魅力のある作品です。さらに上の段位を目指して、一枚でも多く練習しましょう。期待大！

中西 亮 小五 三段

漢字と平仮名のバランスも良く、伸びやかに書けました。「ハネ」「ハライ」を最後まで丁寧に書くことで完成度が上がります。頑張ってくださいね。

久保夕希乃 小六 準六段

とても丁寧な筆づかいで、名前までしっかりと練習のできた明るい作品です。この調子で中学生になっても頑張ってください。

川添 まれ 中一 準3級

上位有段者に負けない力をもっています。明るく伸びやかな作品にとても魅力を感じます。この調子でこれからも頑張ってください。

友添葉留美 中二 準特待生

リズムに乗った伸びやかな作品です。線が重なった点がとても惜しいのですが、名前までしっかりと書いています。今後に期待。

硬筆部最優秀作品

(1月末日締切分)

(坂元紫香先生評)

もの名まえ
をあつめて、おみ
せやさん「こ
してみましょ
う。」

二字以上の漢字の組み合わせの言葉をじゅく語と
いい訓で読むと意味が分
かるものがあります。

どうしたら、古代の人々に負けないものをつくれるのか。一流の職人たちが日本じゅうから総動員された建物をつくる宮大工。かわらを作るかわら職人。

春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいた。

おにを交たいせず
に、つかまつた人
が、おにになる
あそび方もある。

二字以上の漢字の組み合わせの言葉をじゅく語と
いい訓で読むと意味が分
かるものがあります。

暮らしが変わると古い言葉は使われなくなりますが、複合語として使い続けられることもめずらしくありません。花ごよみなど、今も使っているでしょう。

間もなくお店のオープンから一ヶ月が過ぎます。一周年、おめでとうございませう。季節毎に変わる地元野菜中心のメニューは心と体に優しく、何度足を運んでも飽きることなく楽しめます。新鮮な野菜を使った焼きそばや、スタッフの皆様に「自愛の上、これからは私たちが舌を楽にさせてください。」

いろはかるたや百人一首は、今でも多くの人に親しまれ、ほかにいろいろなかかるたがある。

どうしたら、古代の人々に負けないものをつくれるのか。一流の職人たちが日本じゅうから総動員された建物をつくる宮大工。かわらを作るかわら職人。

春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいた。

大人の定義は多岐にわたる。二十歳は明治の平均寿命や精神的成熟からはじいたそうだが、今や寿命は延び、物心共に親がかりの歳月も延びている。三十三歳までが未成年という声も聞かれます。目指せまう！

まついせり
小一 準6級
力のこもったつよい線、げんきよく、どうどうとかけています。なまえもつばです。おけいこのたのしさが伝わります。

徳永 亮太
小二 3級
ペンをしようずに使って、本文から名前までしっかりと練習のできた作品です。これからもこのちようしでがんばってください。

森川 周
小三 2級
お手本をよく見て、二文字一文字でいねいに書いています。日ごろの練習の成果がでていいます。今後さらに期待します。

岡野 亜美
小四 二段
伸びやかな線、明く書けています。漢字と平仮名のバランスもよく、完成度の高い作品です。今後はペンにも挑戦しましょう。

原 陵大
小四 準1級
気のこもった強い線、一生懸命に練習をした様子が作品に表われています。とても好感の持てる作品です。がんばってください。

山口 茉優
小五 四段
お手本をよく観察し、明くすつきりとした線、書いています。ペンの使い方も上手です。この調子でさらに上を目指して下さい。

新開 香織
小五 準四段
一文字一文字、気のこもった線、で元氣よく伸びやかに書けています。今後は鉛筆を少し軽くにぎるとさらに良くなりますよ！

友成 天音
小六 準六段
無理のないペンの使い方は、さすが上位有段者の作品です。後半二行に前半の動きが出るとさらに良くなります。今後に期待。

河野 由
中学 特待生
平仮名が少し小ぶりな点は惜しいのですが、字形は完成度が高く、さすが特待生の作品です。是非、一般部へも挑戦しよう！

田中 玲緒奈
中学 五段
ペンを上手に使って、明く伸びやかに作品をまとめています。書き始めの集中力、名前まで書くことさらに上を目指せまう！

古村 青霞
一般 師範
優しい溢れた伸びやかな線、一つの曲を奏でるような自然な流れを生んでいます。気持ちの充実を感じ、白眉の作です。

藤井 明美
一般 師範
迷いのない明くすつきりとした線に魅力を感じた作品です。『継続は力なり』ですね。師範正を目指して頑張ってください。